

令和7年度 学校評価総括表

(徳島県立徳島科学技術高等学校 全日制課程)

本年度の具体的目標

テーマ

規範意識や倫理観の高揚に努め、豊かな人間性を育むとともに、SSH での取組を主体的・対話的で深い学びの実現につなげ、夢や目標に向かって粘り強く挑戦するチャレンジ精神と、社会の変化や技術の進展に対応できる力を養う教育を推進する。

- ①文武両道を実践し、夢や目標の実現に向けて、何事にもチャレンジ精神をもって、主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。【主体的・協働的に取り組む姿勢の育成】
- ②社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身につけ、社会の変化や技術の進展に対応でき、地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。【専門教育の推進】
- ③「徳島県キャリア教育推進指針Ⅲ」に基づき、変化が激しく、予測困難な時代や社会を生き抜く力を身につけるキャリア教育を推進する。【キャリア教育の充実】

年度総合評価(A : 十分達成できた、B : 概ね達成できた、C : 変化の兆しがあった、D : 達成が不十分であった)

具体的目標	①主体的・協働的に取り組む姿勢の育成	②専門教育の推進	③キャリア教育の充実
番号	1～7	8～17	18～22
総合評価	B	A	A

①主体的・協働的に取り組む姿勢の育成

学校自己評価

年度目標					年度評価(3月1日現在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより、生徒の個性を伸ばし、主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。 (教務課)	基礎・基本の定着を図り、それを活用した実践的な知識や技能を身につけさせる。	教育活動の中で、生徒の実態に応じて、生徒タブレットを活用することで、授業での気づきや発見を大切にして、自らの考えをまとめ、伝えることを通して他者と協働しながら主体的に学習する力を養成する。	① 今年度授業評価における理解度のポイント数を昨年度の1.44 から0.1%向上を目指す。 ② 今年度授業評価における主体性(授業準備、授業態度、興味関心)のポイント数を昨年度の1.277 から0.3%アップを目指す。	(評価指標による達成度) ①2.6%ダウンの1.48 ②1.7%ダウンの1.30 (活動計画の実施状況) ①授業における電子黒板やタブレットの利用が浸透してきている。 ②学校生活全般にClassiの利用が浸透し、様々な場面で活用できている。	(達成度) B (所見) 理解度および主体性の平均値は1.3～1.5の範囲にあり、6割以上の生徒が「できている」と感じ、前向きに学習に取り組んでいるのがわかる。	自己評価の全ての項目について平均値が1.3～1.5の範囲にあり、主体的に授業に取り組む傾向が見られる。タブレット等のICTの利用により、授業に関心を持ち、新しい知識を身に付け、より活用しようとしていると考えられる。	研究授業や公開授業で、タブレットの利用を工夫した授業が行われているので、それらを日々の授業に取り入れていく必要がある。今後、生成AIの活用についても研究や実践が行われることで、さらに生徒が主体的に学ぶ授業にできるのではないかと考える。
2	全教職員による人権教育の体制づくり (人権教育課)	HR活動の計画実施をはじめとして、人権教育活動の改善を行う。	HR活動の立案・実施においてはクラス担当及び副担任が関わるとともに複数クラス又はコース内での連携を図る。	① 学校評価(生徒)人権教育に積極的に取り組んでいる、評価平均値を昨年度4.32より0.05ポイントアップ。 ② 県教育委員会指定研究発表会で全クラス公開授業を実施。	(評価指標による達成度) ①生徒の評価は前年度より0.04ポイントアップした。 ②計画通り実施した。 (活動計画の実施状況) HR活動、発表会の立案・実施については計画通りに実施した。	(達成度) B (所見) 生徒による評価は目標には届かないものの、前年度より上昇した。 公開授業では、専門教育の特質を生かし、生徒の活動を盛り込んだ授業を展開した。	クラス、学年、類・コースが一体となって人権学習ホームルーム活動を立案・実施する体制が定着できた。生徒による人権教育への評価は目標値には届かなかったが、3年生の振り返りアンケートでは、人権意識の高まりや差別解消に向けて主体的に行動しようとする態度が養われた。 県教育委員会指定研究を契機として本校ならではの人権教育を実践することができた。	生徒が充実を実感できる人権教育の方策を立案・実践することである。そのため、今後も、クラス、学年、類・コースが一体となって人権学習ホームルーム活動を立案・実施する体制の充実を図るとともに、全生徒が参加・活動できる人権的行事の立案実施する。

3	学校行事等への積極的参加 (特別活動課)	本校の学校行事について詳細を生徒に連絡する。	担任を通じて生徒への連絡への徹底をする。	生徒の学校行事満足度を昨年度の4.4を上回る。	(評価指標による達成度) 学校行事の満足度4.3 (活動計画の実施状況) 昨年よりできていた0.1ポイントダウンした。	(達成度) B (所見) 2,3年生の満足度が、4.2と低くなった。	より一層の積極的参加が望まれる。例年通りの行事の開催ができ、生徒会を中心に内容もブラッシュアップされ、生徒も楽しんで参加した。	今後はより一層の生徒会主導の学校行事運営することで、一般生徒の積極的参加につなげる。
4	保健安全に関する指導・情報提供を行う。 (保健厚生課)	生涯を通して、健康で活力がある生活を送るために、健康の保持増進に関する指導の充実を図る。	定期健康診断や保健だよりの発行等により健康に関する情報提供を行う。	①定期健康診断受診率100% ②保健だよりの発行 (月1回)	(評価指標による達成度) ①定期健康診断受診率99% ②保健だよりの発行100% (活動計画の実施状況) ①未受診者に対して学校医・歯科医の協力により、受診率99%にすることができた。 ②保健だよりを月1回発行した	(達成度) B (所見) 長期欠席の生徒以外は、全員が受診することができた。	①学校医・学校歯科医の協力により、定期健康診断を実施し、必要に応じて受診指導することができた。 ②感染症対策やメンタルヘルス、健康診断や修学旅行等、適宜を捉えた情報提供が行えた。	①定期健康診断の重要性・必要性を伝え、次年度も受診率100%をめざすとともに、二次検査(精密検査)の受診率の向上を図る。 ②引き続き、各種行事等機会を捉えた情報提供を行う。
5	①環境整美委員会を中心に、担任や清掃分担の教員の協力のもと、校内美化を徹底する。「清掃で心を磨く科技高生」を実践する。 ②防災委員、防災クラブの活動をベースに、地域住民と協働し、災害時に命を失わない態度を育成する。 (環境教育課)	①日々の清掃活動を充実させ、集中して勉学に取り組める環境整美に努める。 ②地域と共に防災活動を行い、社会の一員として求められている防災マインドを育てる。	①校内美化週間の期間中、環境整美委員会を中心に清掃とゴミの分別を徹底する。併せてロッカー・掲示物の整理整頓等を丁寧に行う。 ②地域と連携した防災訓練及び炊き出し訓練を企画し実行する。また、防災委員の活動として、防災に関する研修会に参加し、防災に関する知識やスキルを身につける。	①日頃の清掃とゴミの分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓、校舎内へのグラウンドの土の落ち込みを減らす。 ②地震と津波を想定した垂直避難訓練において、全校生徒・教職員・近隣幼稚園・保育園・地域住民合わせて1,000名以上が津波到達時間の40分以内に避難完了する。また、炊き出し訓練を実施し、各種研修会に参加する。	(評価指標による達成度) ①清掃・分別・掲示等の整理整頓は良好であった。 ②合計1,098名が参加し、避難完了時間は23分であった。 (活動計画の実施状況) ①環境整美委員会を中心に日常の清掃・ゴミ分別の徹底に取り組んだ。また、体育祭や文化祭でも率先して環境美化の啓発に努めた。 ②炊き出し訓練を実施し、防災委員及び有志が防災選手権に参加し優勝した。	(達成度) A (所見) ①概ね良好。文化祭等での食べ歩きが改善した。 ②概ね良好。初期の目標はほぼ達成できた。	①『清掃で心を磨く科技高生』のスローガンのもと、環境整美委員会を中心に学校全体での取り組みが効果的であった。本年度も共用部分のワックス掛けを率先して実施した。 ②防災意識や避難時の弱者に対する思いやり等の醸成に効果があった。	①環境整美委員会を中心に担当教員の指導の下、引き続き環境整美を徹底する。アンケートにより清掃状況を把握し環境美化週間に反映させる。 ②避難訓練時にトランシーバーによる交信に問題が生じた。日頃から、通信機器などのインフラの整備・確認が必要である。
6	生徒が安全で安心して生活できる教育環境を整える。 (生徒課)	教育活動全体を通して、全生徒に「いじめは絶対に許されないこと」との理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。	いじめ・体罰被害アンケートや面談を通して早期発見に努める。	年3回のいじめ・体罰被害アンケート、年2回以上の面談を実施する。	(評価指標による達成度) いじめ・体罰被害アンケート3回、面談を年2回以上実施することができた。 (活動計画の実施状況) 各学期末のHR活動の時間に、いじめ・体罰被害アンケート調査を実施した。また、1学期・2学期当初、夏季休業中に面談期間を設け実施した。適宜、アンケートを実施した。いじめZERO委員会が全校集会で啓発活動を行った。	(達成度) A (所見) 早期発見することで、未然防止に努めることができた。	アンケート調査結果や面談からから、生徒からの相談、悩み、情報提供を受けて、組織的に対応し解決の糸口となった	未然防止のためにも、生徒と教員の信頼関係を高めていきたい。また、「いじめZERO委員会」の活動を活発にし、生徒達自身が、いじめをしない雰囲気をつくれるようにする。 スマホ、SNSの正しい利用について啓発することで、いじめやトラブルの防止に努める。
7	生徒、保護者、教員に対する教育相談活動の充実 (教育相談課)	欠席の増加や表情等、生徒の変化を見逃さず、適切にカウンセリングを行うための学校全体の相談体制を整える。	カウンセリングの広報を行うとともに、スクールカウンセラーや専門機関との連携を図る。	「ほっとだより」を月1回発行する。	(評価指標による達成度) 「ほっとだより」を月1回発行した。 (活動計画の実施状況) 予定通り発行することができた。	(達成度) A (所見) カウンセリング希望者は前年度より増加した。	情報共有のためのフォルダを作成し、情報共有を図ったが、利用が少なく十分に活用できなかった。	多様化している生徒に対し、早めの対応と共に様々な選択肢の情報提供が必要である。そのためにも、情報共有フォルダの利用を進めるための広報を行う。

②専門教育の推進

学校自己評価								
年度目標					年度評価(3月1日現在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
8	SSH 事業の取組を行うことにより、理数系教育を通して、科学技術人材の育成を図る。 (SSH 推進課)	SSH の取組により、生徒の興味や関心を持たせる。	魅力ある SSH 事業を展開し、理科・数学への興味や関心を向上させる。	「SSH の各種事業に参加して、科学技術に興味・関心が増した」70%以上	(評価指標による達成度) 78.5% (活動計画の実施状況) STEAM 教育教科コラボ授業を実施したことで、教職員・生徒間における教科横断的な学習活動の重要性を周知・醸成することができた。	(達成度) A (所見) 概ね計画通り実施できた。	理工学分野における進路意識の醸成、課題研究への主体的な取り組み、および研究スキルの向上という各側面において、SSH 事業の成果が十分に発揮されたと評価できる。	これまでの取り組みを継続・発展させるとともに、STEAM 教育を軸とした新たな施策の推進を加速させ、さらなる探究活動の質的向上を図る。
9	工業の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向に適切に対応し得る人材の育成を目指す。 (情報科学コース) (環境科学コース) (機械コース) (生産システムコース) (電気コース) (情報通信コース) (環境土木コース)	工業教育のそれぞれの特長を生かした教育を推進し、実験・実習や課題研究、インターンシップ等の体験的な教育活動を展開する。	大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を実施する。 (情報科学コース) (環境科学コース)	年3回以上実施する。	(評価指標による達成度) 大学訪問3校、研究所等訪問5カ所、高大連携実験講座(1年)、サイエンスカフェ(2年) (活動計画の実施状況) 予定どおり実施できた。	(達成度) A (所見) 計画通りに実施できた	新入生の進学への意識を高めることに役立った。大学生から講義を受けられることで将来の研究や大学進学への期待を持たせることができた。先端の技術や研究を知ることによって科学への興味関心が高まった。	生徒の進学意識の高揚に効果があることから継続して取り組みたい。新たな大学や研究所訪問を実施できるように次年度の計画を立てたい。
10			インターンシップを通じて企業との連携を密にし、キャリア教育につなげる。 (機械コース)	2年生の30%以上の生徒に対して、インターンシップを実施する。	(評価指標による達成度) 2年生の57.1%の生徒に対して実施した。 (活動計画の実施状況) クラス全体の進路に対する意識向上になった。	(達成度) A (所見) 概ね計画通り実施できた。	授業で学んだことが仕事でどのように活かされるのか知る良い機会となった。インターンシップはキャリア教育を推進する上で非常に効果的であった。	来年度もインターンシップを実施し、キャリア教育を推進するうえで、生徒ができるだけ関心を持つことができるよう工夫する。
11			キャリア教育を推進し、インターンシップを通して、地元企業との連携を密にする。 (生産システムコース)	就職希望者(対象:2学年)の45%を対象として、インターンシップを実施する。	(評価指標による達成度) 2年生のインターンシップについては48%の生徒に対して実施した。 (活動計画の実施状況) クラス全体の進路に対する意識向上にはつながっている。	(達成度) A (所見) インフルエンザに罹患した生徒が多数出たため、本来なら例年通り就職希望者の70%に近い人数になっていた。	授業で学んだことが仕事でどのように活かされるのか、知る良い機会となった。インターンシップはキャリア教育を推進する上で非常に効果的であった。	来年度もインターンシップを実施し、キャリア教育を推進するうえで、生徒ができるだけ関心を持つことができるよう、企業との連携とマッチングに向けて工夫する。
12	インターンシップを通じて企業との連携を密にし、キャリア教育につなげる。 (電気コース)	インターンシップを通じて企業との連携を密にし、キャリア教育につなげる。 (電気コース)	インターンシップに2年生の20%以上の参加を目指す。	(評価指標による達成度) 67%の生徒がインターンシップに参加 (活動計画の実施状況) 生徒がインターンシップに参加し、生徒の進路に対する意識向上になった。	(達成度) A (所見) 企業の協力で実施することができた。	企業での研修は生徒の進路に対する意識向上と専門学習の良い機会となり、将来の進路選択により影響が期待できる。	企業との連携を深め、今後も継続して実施していきたい。	

13		インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。 (情報通信コース)	インターンシップに2年生の20%以上の参加を目指す。	(評価指標による達成度) インターンシップに2年生全員参加 (活動計画の実施状況) インターンシップ(3社)と工場見学(1社)を実施した。	(達成度) A (所見) インターンシップの期間を分散、内容を見直しすること全員が参加することができた。	インターンシップでの研修や工場見学は、進路意識の向上に繋がった。進路選択時により影響が期待できる。	企業との連携もスムーズに行え、良い時期に実施できた。進学希望者も多いクラスなので大学訪問も実施していきたい。	
14		実習・課題研究について、社会人講師の活用やインターンシップを通じて、最新技術の習得や地域との連携を更に充実させる。 (環境土木コース)	インターンシップ希望者全員が参加できるようにする。	(評価指標による達成度) インターンシップ希望者全員が参加 (活動計画の実施状況) 就職希望者の73%の生徒がインターンシップに希望し全員参加できた。	(達成度) A (所見) 企業の協力で実施することができた。	企業での研修は生徒の進路に対する意識向上と専門学習の良い機会となり、クラス全体の進路に対する意識向上になった。	今後も継続して実施していきたい。	
15	専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。	有益な資格を取得させ、検定の合格を目指す。 (建築コース)	2級建築施工管理士補の合格率70%以上を目指す。	(評価指標による達成度) 合格率88.8% (活動計画の実施状況) 2級建築施工管理技士補合格率88.8%となった。	(達成度) A (所見) 高い目標をもって取り組むことができた。	資格取得をとおして、資格の大切さを知るとともに、生徒の進路意識向上につながった。将来を見据え、資格試験に取り組むことができた。	今後も継続して、合格率を達成できるように、受験者全員合格をめざし、資格試験の対策を充実していきたい。	
16		実習・課題研究を充実させ、コース展や各種コンペに参加し、地域との連携等、対外的な活動を更に充実させる。 (総合デザインコース)	課題研究の作品を各種コンペに出品し、入賞10以上を目指す。	(評価指標による達成度) 入賞数19作品 (活動計画の実施状況) 各種コンペで成果をあげることができた。	(達成度) A (所見) 難度の高い資格に合格できたが、例年に比べ、合格率が低下した資格もあった。	各種コンペには多数入賞を果たしたが、資格については、高難度の資格について成果をあげることができた反面、合格率が下がった資格もあり、基本的な知識の定着を目指したい。	今後も引き続き、各種コンペに参加し、成果をあげていきたい。資格検定については、どの資格についても最上位の合格を目指しながら、合格率を上げる。	
	水産の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向等に適切に対応できる人材の育成を目指す。	水産教育の特長を生かした教育を推進し、実験・実習や課題研究、フィールドワーク等の体験的な教育活動を展開する。 (海洋科学コース)	フィールドワークを積極的に実施するとともに、関係機関と連携した出前授業や施設見学を実施し、生徒の水産・海洋分野への興味・関心を高める。	漁業体験、フィールドワーク、出前授業等を各学期1回以上実施する。	(評価指標による達成度) 各クラス各学期1回以上実施することができた。 (活動計画の実施状況) 1年:水泳実習、徳島大学見学、水産研究課見学、漁業応援隊出前授業、吉野川干潟調査、友ヶ島航海、伊島航海 2年:スノーケリング、志和岐調査、大敷網漁業体験、澄海見学、小豆島航海、和歌山航海 3年:スキューダイビング、洲本航海、神戸航海、志和岐調査	(達成度) A (所見) 概ね計画通り実施することができた。	フィールドワークや出前授業を通して、水産・海洋分野への興味・関心を高めることができた。また、SCITEC-HI 研究のテーマを設定する上での良い経験となった。	次年度も新たな連携先を探しながら、継続して取り組んでいきたい。
17	専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。 (海洋総合コース)	専門分野への理解と学習意欲向上のため資格取得を奨励し、有益な資格や検定等の合格を目指す。	係船や漁具製作に必要な基礎的な技術の習得率90%以上を目指す。	(評価指標による達成度) 漁業技術検定実技試験(漁具製作)の合格率95% (活動計画の実施状況) 漁業技術検定受検に向けて計画的に漁具製作の技術習得に取り組んだ。	(達成度) A (所見) 概ね計画通り実施することができた。	漁具製作に苦手意識を持つ生徒は検定までに自主的に練習を行うなど、前向きに技術習得に取り組む姿が見られた。	漁業技術検定受検の実技試験の合格率95%であったが、筆記試験の合格率が80%であった。次年度は筆記試験の対策にも取り組んでいきたい。	

③キャリア教育の充実

学校自己評価								
年度目標					年度評価(3月1日現在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
18	生徒の希望に添った進路指導と進路達成に向けて学習指導の充実を図る。 (進学課)	生徒一人一人の希望や適性に対応した進路指導を展開するとともに、進路ガイダンスや講演会等を通して、キャリア教育の充実を図り、社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。	生徒の希望に添ったガイダンスを各学年にて実施する。また、進路講演会等により、上級学校への進学に対する意識の向上、補習や課題テスト、校外模試を通じて学力の向上を図る。	適性・希望に対応した進路指導に対する満足度 80%以上	(評価指標による達成度) 生徒の満足度 95% (活動計画の実施状況) 生徒の進路ガイダンスへの参加や教員による大学訪問や説明会への参加を通じて、多くの情報を得ることができ、生徒一人一人に応じた進路指導を展開することができた。	(達成度) A (所見) 生徒だけでなく保護者や教員にも情報を提示し、進路実現に向けてより計画的に取り組めるようにしたい。	進路ガイダンスや講演会への参加を通して、生徒が自分の将来の生き方や進路について考える機会となった。粘り強く努力し、一般入試で合格者を出すことができた。	生徒が自己理解を深められるよう継続した指導に加え、キャリア・パスポートの活用や課外活動等を積極的に推進していく。また補習の在り方等も工夫し、進路に応じた学力を身につけさせる。
19	個々の希望と適性に応じた進路指導を行う。 (就職課)	進路への興味・関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観と勤労観を養う。	幅広い情報の収集を図り、進路情報の提供に努める。進路講演会等とおして、キャリア教育の充実を図る。	適性・希望に対応した進路指導に対する満足度 80%以上	(評価指標による達成度) 満足度 95% (活動計画の実施状況) 職場見学会、進路講演会などを積極的に活用するなど、生徒の職業観・勤労観などを養うことができた。	(達成度) A (所見) 保護者に対しての本校の進路指導の情報提供等の改善を行う。	講演会をとおして、生徒自ら進路について考えるきっかけとなった。	適性・希望に応じて進路指導が行われているかのアンケート結果を受け、より一層保護者への進路情報の充実を図る。さらに、地元企業への就職に向けた啓発を行う。
20	社会的・職業的自立に必要である能力を身につけ、社会の変化に対応でき、地域社会や産業界に貢献し得る人材を育成する。 (教育情報課)	生徒のタブレット端末活用及び読書の推奨を図り、基礎学力の向上と生涯にわたり学び続ける能力を育てる。	① 生徒用タブレット端末のメンテナンス等の管理を適切に行う。 ② 図書館の積極的な活用を図り、読書の奨励を行う。	① 生徒のタブレット端末保持率 100%を目指す。 ② 図書貸出数が月間 300 冊以上を目指す。	(評価指標による達成度) ①生徒のタブレット端末保持率 100% ②図書貸出数が月間平均約 166 冊 (活動計画の実施状況) ①新しいタブレット端末は安定しており、安心して管理できている。 ②図書貸出数は、目標の 55%になった。	(達成度) B (所見) ①生徒のタブレット端末保持率 100%を達成することができた。 ②図書貸出数の半分が 1 年生となっている。	今年度よりすべての学年で Dynabook への移行したため故障がほとんどなく、生徒のタブレット端末保持率 100%を維持できている。 図書館の利用は特定の生徒だけになっている。	端末保有率は達成したが、教育活動における利用かなりすくない。生成 AI の活用も含めて積極的に端末を活用していけるように働きかける必要がある。 2、3 年生の図書室利用の増加の対策をすることで、図書貸出数の増加につなげる。
21	生徒が働くことへの理解を深めるために、家庭・地域・企業との連携と周知を図る。 (総務課)	生徒の職業観・勤労観確立を目指すために、PTA 活動への積極的な参画を進め、保護者と教員がより頻繁に意見を交換する機会の充実に努める。	保護者・教員が協力して学校運営を支援する関わりを通して生徒の進路実現を図る。	① PTA 総会にて理解を得て、行事や活動を継続していく。 ②体育祭・文化祭関係の四役会への役員の参加 90%以上。 ③PTA 活動の参加の返事を Classi で行き、意見や質問を受け、改善を図ることで保護者との信頼関係と連携を図る。	(評価指標による達成度) ①行事や活動を計画どおり実施することができた。 ②PTA 四役の参加率は 80% ③全ての活動を Classi で連絡することができた。 (活動計画の実施状況) Classi を活用することで、情報の共有や保護者の意見を聞くことで、運営に反映することで信頼関係と連携を図ることができた。	(達成度) B (所見) Classi を使い、保護者との連携を十分に取ることができた。特に校内活動費の支出を見直し、予算を有効に活用できるように務めた。	PTA 活動をとおして、生徒・保護者・教員相互の連携をスムーズに行うことでより良い学校生活のサポートを行うことができた。特に校内活動費の支出を見直し、予算を有効に活用できるように務めた。	PTA 活動の説明をより丁寧に行い、PTA 四役会での協議内容をより生徒のためという視点で、生徒・保護者・教員相互の連携を図れるよう PTA 四役会で協議できるようにしていきたい。
22	中学生、その保護者、中学校教員への学校広報を図る。 (企画広報課)	本校の教育内容・教育活動についての広報を積極的に実施する。	中学校訪問では、本校の教育内容・教育活動の概要について説明し、ホームページでより詳しい内容を発信することで、中学生に理解を深めてもらう。	学校ホームページの更新回数を月 15 回以上とする。	(評価指標による達成度) 月平均 21.0 回 (活動計画の実施状況) ホームページ更新回数 月平均は 21.0 回であった。	(達成度) A (所見) 定期的に更新することができた。	平日は、ほぼ毎日更新することはできた。中学生に向けた内容を掲載したが、入試ではの志願者増加につながらなかった。	ホームページの情報提供内容が偏っているため、幅広く広報する。 公式 YouTube チャンネルの投稿を増やす。